

## 「市場再編」

東京証券取引所（以下、東証）では2022年4月4日に市場区分を見直しする「市場再編」を予定しています。今回はこの「市場再編」について説明いたします。

### 1. 市場再編とは

現在、東証は「市場第一部」「市場第二部」「マザーズ」「JASDAQ（スタンダード・グロース）」の4つの市場区分で構成されていますが、今回、これらを3つの市場区分に見直しすることとなりました。この見直しを一般的に「市場再編」と呼んでいます。

### 2. 市場再編の背景

東証の市場は海外の市場と比べると企業の成長や取引量が伸び悩んでいました。その理由は大きく分けて以下の2つです。

#### (1) 市場変更基準・上場廃止基準が低い

東証二部、マザーズ、JASDAQに上場する企業が、東証一部などの上位市場へ昇格する際の市場変更基準が、上位市場の新規上場基準より緩和されている。さらに上場廃止基準（上場を維持する基準）も新規上場基準より大幅に低いため、上場後も企業価値の維持・向上を図る動機付けになっておらず、全体の約33%が新規上場基準である時価総額250億円を下回るなど一部上場企業の質が低下し、世界の投資マネーが日本株から遠のく原因となっていました。

#### (2) 市場区分ごとのコンセプトが明確でない

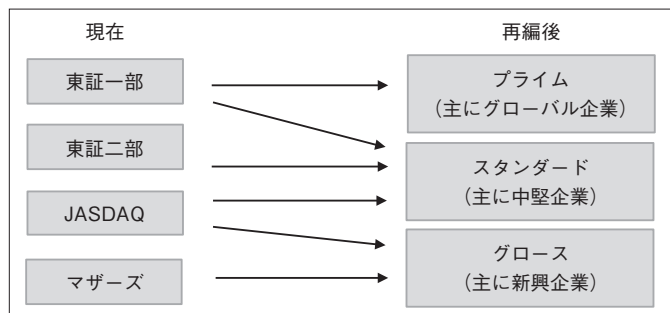
海外を含む多くの投資家の銘柄選定において、東証二部、マザーズ、JASDAQの位置づけが重複しており、4つの市場区分のコンセプトが不明瞭であることが指摘されていました。

### 3. 市場再編の概要

市場区分は、明確なコンセプトに基づいて、①グローバル企業を主な対象とした「プライム市場」、②中堅企業などを主な対象とした「スタンダード市場」、③新興企業などを主な対象とした「グロース市場」の3つに再編されます（図表1）。

新たな上場基準では、流動時価総額、流通株式比率基準、ガバナンスなどが明確に定められ、新規上場基準と上場廃止基準は原則共通となり、上場後も基準を維持することが求められます。また、市場変更する際も新規上場と同等の基準をクリアする必要があります。

図表1 市場再編のイメージ(東京証券取引所の資料を基に当研究所にて作成)



### 4. 新市場への移行

2021年7月末現在、東証一部に上場する2,190社のうち、約3割の664社が「プライム市場」の基準未達となっています。当面は経過措置がありますが、計画書提出や進捗状況の開示が必要であり、「スタンダード市場」の選択を検討している企業もあるようです。

現在の市場区分は、2021年12月30日までに移行先となる市場区分を主体的に選択し、2022年4月4日に新市場へ一斉に移行する予定であり、「どの企業がどの市場に行くのか」投資家などの注目を集めています。

## 閑話ひとつ

- ▶東京2020オリンピック競技大会は、7月23日から8月8日まで17日間にわたって開催され、数多くの感動的シーンが国民の心に刻まれた。福島県では、開会式にさきがけ福島あづま球場にて女子ソフトボール競技が開催され、オリンピック競技全体の開幕を飾った。
- ▶福島から競技開始されたソフトボール、野球の金メダルは、多くの県民に大きな希望をもたらした。Jヴィレッジからスタートした聖火の光が、コンセプト「Hope Lights Our Way/希望の道を、つなごう。」に沿って、困難を乗り越え、支えあい、認めあい、高めあい、新しい時代の日の出となって、人々にとって希望の道を照らしたことを心から祈念する。
- ▶東日本大震災以降、福島を愛し、福島の復興・再生に格闘するたくさんの方々の不撓不屈の精神は、心ある世界の人々の心とつながり、確かに響きあっている。人を想う・人の役に立つ・人を支えるといった、ごくあたりまえのことが、震災後、何よりも私達にとって大切なことになった。どんな困難にあっても何度も何度も立ち上がろうとする方々の心に寄り添い、福島県民としての矜持・志・正義をもって力の限りご支援していきたい。福ある島のすべての子供たちの輝ける未来のために。(KY)